

平成28年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績・効果	今後の取組方針
1	おおずアクティブチャイルドプログラム	特定非営利活動法人大洲スポーツクラブ	継続 (6年目)	893,000	893,000	<p>平成22年度からがんばるひと応援事業を活用しスタートした「サッカー・スクール」は、スクール生も年々増え、自立して活動できるようになった。また、幼稚園、保育所を巡回するキッズプログラムも年々対象施設も増加し、現在では、ほぼ全ての幼稚園、保育所で実施し、和太鼓プログラムも開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●キッズプログラム(年間実施回数:173回 対象園児数:約560名) <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金により年々開催施設を増やす事ができ、全ての公立幼稚園、保育所で開催できるようになった。大洲市内の全ての子どもたちがスタンダードな教育として受けることができる体制を目指し活動してきたので、大きな目標が達成できた。</li> <li>・毎回、子どもたちが楽しみにしており、これらの実績や子どもたちに与える影響を保育所、幼稚園ともに認めて頂き、継続を希望する声が強い。</li> <li>・子どもたちの運動能力においても、全体が格段に伸び、様々な動きやボールを使った神経系の運動、また仲間と協力したりルールを守るといった成長がみられた。</li> </ul> </li> <li>●和太鼓プログラム(年間実施回数:90回 対象園児数:約350名) <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象園を14園まで拡大できた。</li> <li>・本物の和太鼓を打ったり踊ったりすることで自己表現ができるようになり、さらにリズム感や姿勢も良くなったという声もいただいた。</li> <li>・園行事での発表会(運動会や夕涼み会、クリスマス会)だけでなく敬老会や地域の行事などでも披露することで行事を盛り上げたり、保護者や地域の方からも好評で、子どもたちも自信が付き成長できた。</li> </ul> </li> </ul>	<p>この6年間大洲市ががんばるひと応援事業を実施させていただいた。</p> <p>今後の取組方針については、おおずアクティブチャイルドプログラムに関しては、NPO法人として継続して活動できるよう協賛金を募る活動も行っている。今後も地域の法人、個人の皆様からご支援いただき地域の子供たちは地域で育てるというモデルを形成していきたい。</p> <p>また、子どもたちの体力向上、健康増進、さらには発育発達における重要な要素という観点から、これらのプログラムを委託事業として提案させていただいた。</p> <p>そして、この活動を通して地域住民が定期的にスポーツを楽しむこと(関わること)で、地域コミュニティの発展、健康志向で活力ある町づくりに貢献していきたい。</p> <p>[市としての対応]</p> <p>事業を体験した子どもたちや保護者には大変好評で継続の要望が強かったことから、委託業務ではないが、幼稚園は教育委員会、保育所は子育て支援課がそれぞれ謝礼として予算を計上し、平成29年度以降も継続して行われることになった。</p> <p>市内講師 1回 5,000円、市外講師 1回 10,000円</p>
2	Nagakou Garden Café	長浜高等学校水族館運営協議会	継続 (5年目)	1,970,000	1,970,000	<p>引き続き、長高水族館を第3土曜日に一般公開し、自然体験の場として幼稚園、小学校などの教育団体には、必要に応じ臨時公開し、環境学習の場を提供した。ガーデンカフェを実施し、ダンスインストラクターによる水族館部員向けのレッスンをし、その成果を中庭の整備したステージで披露した。</p> <p>また、BDレコーダーの購入と海水用ポンプ据替え工事を行い、BDレコーダーは、水族館内の様子、パフォーマンス、研究発表などの映像を保存し、来館者への情報提供に活用した。</p> <p>海水用ポンプ据替え工事は、井戸の新規打ち抜き、配管工事、電気工事、ポンプの設置などを行い、海水井戸からの海水の流量を現在の約2倍に増やすことができ、飼育生物の健康状態の向上と、飼育数の増加を図ることができ、ブリやハマチなどの大型魚の飼育が実現した。</p> <p>来館者満足度は、昨年度(89.2)から今年度(90.8)へ1.6ポイント上昇させることができた。</p> <p>長高水族館の活躍は、大洲市のイメージアップ、そして知名度の向上に大いに貢献でき、特にこの1年間の知名度向上は著しかった。</p> <p>○一般公開日:5,325人 ○保育園・小学校・出張水族館等の臨時公開:2,214人、その他:800人 ○H28年度 8,339人 (参考:平成23年度4,494人、平成24年度6,870人、平成25年度8,277人、平成26年度8,009人、平成27年度8,605人。)</p>	<p>長高水族館は、学校の耐震工事等の学校の事由により、平成29年度申請を見送る。</p> <p>しかし、平成29年度においても地域の観光拠点として発展し続けたいと考えている。長浜の他の地域づくり団体が実施される事業と合同で今後も一般公開など事業を実施していく。</p>
3	大洲エビネの地域ブランド化推進事業(魅力ある地域づくり推進事業)	大洲農業高等学校生産科学科	継続 (4年目)	687,000	687,000	<p>大洲のエビネは、一部の愛好家の中では全国的なブランド力を持っているが、地域住民はもとより一般的には知名度は低い。また、全国に通用するポテンシャルを持っているが、愛好家の高齢化が深刻化しており、栽培技術はもちろん文化の継承が困難となっている。</p> <p>そのため、関係機関と連携し、特産品であるエビネを活用した地域ブランドの知名度向上に取り組む。併せて、絶滅危惧種に指定されているエビネを自生地に戻す活動を行い、地域の環境改善と啓蒙活動を行う。</p> <p>大洲ブランドの知名度を高めるための活動では、開花期に愛好家の多い九州地方での地震の発生により、期待した集客数に至らなかった。専門業者との交流活動や倍數化技術の確立に成功したり、ウイルス病対策としてウイルス検定の導入による信頼性の向上を図ることで、国内の育種専門業者や海外専門業者が視察が来るなど着実に成果をあげることができた。</p> <p>また、本校の卒業生を中心に、大洲エビネ会への新規入会者があり、倍數化技術を生かした産業化とエビネ文化の技術継承を担う人材の確保に努めるとともに、簡易栽培キットの研究を実施し、今後の普及活動に一定の目処をつけることができた。さらに、環境保全活動を定期的に実施し、地域住民への啓蒙活動に努めることができた。</p> <p>これらの活動の様子が新聞やテレビ・ラジオで紹介されたり、一連の研究活動の成果が認められ、農業クラブ全国大会プロジェクト発表の部において、四国ブロックの代表として発表する機会を得ることができた。現在は、学校HPや各種SNSサービスを利用しての情報発信に努め、事業目的の達成に貢献している。</p>	<p>国内外のエビネ愛好家との交流活動を継続し、大洲エビネの普及活動を推進する。</p> <p>倍數体作出技術を用いて、本格的なエビネ作りに取り組むための研究を継続する。</p> <p>エビネの倍數化技術の確率化を図り、検定技術の確立を行うことにより、大洲のエビネのブランド力を強化する。</p> <p>学校の実習林の自然の中にエビネを植栽し、エビネ自生地の再生活動を継続する。</p> <p>ホームページやSNSサービスを利用した大洲エビネの情報発信を継続する。</p> <p>高齢化する愛好家たちの技術継承のための後継者の育成を継続する。</p> <p>市場調査を行いながら、エビネを産業化する人材を育成する。</p>

平成28年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名		事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績・効果	今後の取組方針
4	高校生による大洲の食文化の継承事業(魅力ある地域づくり推進事業)	大洲農業高等学校食品化学科	継続(4年目)	大洲市内の食生活研究協議会との交流活動(伝統食の料理教室など)により、加工品開発の技術や料理を学び、大洲市の食文化の継承するとともに、それを基に新たな加工品開発に取り組み地域の活性化に向けた貢献活動を展開する。地元のそば栽培農家との交流を行いながら、大洲産のそば粉(100%)を使ったそば打ち技術を習得。介護福祉施設等でそば打ちを披露し地産地消の一助とするとともに、「全国高校生そば打ち選手権大会」に出場し、大洲の食文化をPRするきっかけとする。			大洲市生活研究協議会、長浜町豊茂自治会、肱川町正山地区生産組合と伝統食の継承を目的とした交流会を実施し、問題点や課題について話し合いを行った。地域の抱えている問題点の把握を行い、生活研究協議会との交流会を持ち、郷土料理6品の作り方を学んだ。豊茂地区では、郷土料理の作り方を学び、栽培されている赤しそを使ってお寿司等を試作し販売に向けて検討した。正山地区では、旧正山小学校校舎を利用したそば打ち教室を開催し、地元産のそば粉を使ってそば打ちを行った。介護福祉施設において、生徒がそば打ちを披露し、施設の利用者、職員などに打ち立てのそばをふるまうボランティア活動を行い大変喜ばれた。県農山漁村研究協議会が主催するふるさとづくり推進大会の場で地域の伝統食継承に向けて高校生が取り組む事例として発表し、高い評価をいただいた。異年齢集団との交流会や意見交換会の実施により高校生が伝統料理に興味を持ち、継承していくことの大切さを感じ取ることができた。	高校生の伝統食復活プロジェクトとして、生活研究協議会との交流活動を継続していき、地域の食文化の継承を農業高校生が担っていきたい。また、その中で、高校生の新たな発想で新たな加工品を開発し、地域を代表するような加工品作りで地域活性化につながるようにしたい。生活研究協議会、豊茂自治会、正山地区とは今後も連携をしながら、地域活性化に貢献できることについて意見交換会を実施する予定である。
5	戒川地区榎谷の棚田保全事業	榎谷棚田保存会	継続(3年目)	棚田啓発事業として、田植え祭、収穫祭などのイベントを継続するとともに、見学者向けの案内板を設置し、棚田の特徴や歴史、周辺の見所などを紹介することで、地域の魅力を効果的に伝える。また、棚田のオーナー獲得を図るためのPRツールの作成や説明会の開催など、棚田オーナー制度のPR活動を推進する。地域資源の有効活用を図るため、昨年度試作を行った地場産品を活用した郷土料理を完成させ、戒川地区の観光と結びつけた企画を試験的に実施する。	624,000	624,000	見学者向け案内板の設置、棚田啓発事業を充実し、榎谷棚田の認知度が向上した。普及啓発活動の着実な広がりを背景に、榎谷棚田保全活動への関心の高まりを感じる。棚田オーナーが目標を超えて広がった。大洲市外で初めて「棚田写真展&オーナー募集説明会」を開催したところ、ネットでの情報発信を強化したことが寄与している。オーナー年会費の地元還元への期待も生まれ始めており、今後の本格的な展開に向けた道筋を作りだした。6次産業化については、郷土料理と戒川観光を結び付けて、実験企画を行う計画だったが、その中核施設となる旧戒川小施設の活用など地元で話し合いが十分熟さず、実施にはいたらなかった。引き続き、6次産業化部会での研究活動を行っており、来年度の新たな展開を検討する。	棚田オーナー制度の拡充と6次産業化、移住者受け入れを3つの重点として活動を継続していく。地域おこし協力隊員の受け入れにより、保存会へもどんどん関わっていただき、事務局としての位置づけ、インターネットなどSNSを活用した情報発信を強めていく。これからの地域づくり3ヶ年計画を作り、協力隊員の自立定着と3重点の推進を一体のものとして取り組んでゆく。
6	肱川あらし予報事業	肱川あらし予報会	継続(3年目)	「肱川あらし」の予報をHPで情報発信するとともに、ポスターを作成し、市内外に配布することでPRに努めながら、前日予報に加え週間予報の整備に取り組む。また、肱川あらしを漁船から見る体験を希望する登録者などを中心に、体験ツアー・赤橋自由空間・長浜水族館と連携し「肱川あらしファン」を大切に大きくしていくための『集い(肱川あらしの集い)』を開催する。	1,631,000	1,631,000	肱川あらしの予報を10月31日から2月27日まで毎日予報を行った結果、9,933件のアクセスで、視聴時間25,995分があった。ホームページの動画作成・ポスター・絵葉書等の作成を行い、情報を幅広く発信し続けている結果、様々な効果が出てきた。(伍代さんの歌やマスコミの特集なども含む。)霧による観光振興を行っている備中松山城を視察し、地元観光協会との交流を図ることができた。また、鹿児島県川内市から肱川あらしの視察訪問等もあり、少しずつ交流の輪が広がってきている。長浜地域の貴重な資源の再発見につながり、地域資源を活用した観光等に向けた活動となる。	単なる予報だけでなく、肱川あらしを軸として、様々なイベントや事業を企画していくための活動が必要であると考えており、予報会が企画グループとして、多くの市民を巻き込める活動を展開していく。そのためには、活動経費の確保をどのようにしていくのかが大きな課題である。
7	銀河鉄道999でまちおこし事業	新谷一万石まちおこしの会	継続(3年目)	平成26年度より内容を拡充しながら事業を継続実施したことにより、松本先生と新谷のつながりがより強固なものとなったことや、マスコミにも数多く取り上げられ認知度が向上したことで、新谷地区においても、まちおこしの気運は高まっている。この気運をさらに高めるためにも、今年度も引き続き、イラスト審査会や路上長テーブル食事会を中心にイベントを開催し更なる活性化につなげる。	2,000,000	2,000,000	松本先生から「こころの古里新谷」という言葉をいただき、松本先生と新谷(大洲市)との繋がりがや松本先生が新谷を愛されていることが、イベントに参加したお客様はもちろん、取材に来られた多くのマスコミを通じて全国に発信できた。また、当イベントを実施するにあたり、商工会、老人会、青年団、交通安全協会、消防団等の地元各種団体そして、小学校、中学校、高校が一つになってオール新谷で運営できたことに住民の誰もが喜びを感じている。	初期目標である「新谷」の発信は、ある程度成果を得たと感じているが、次の目標としてはイベントの継続実施による知名度の更なる確立、そして単なるイベント開催による打上げ花火で終わらないよう、観光客を楽しませるためのハード整備、その対応ができる組織作りが必要である。また、松本先生との繋がりが継続することから、これらを維持していくための(補助終了後の)財源の確立が重要である。

平成28年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名		事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績・効果	今後の取組方針
8	大和キャンドルナイト	大和イルミネーション愛好会	継続(2年目)	イルミネーションを拡充してイベントを継続開催するとともに、新たに、昨年、大和小児童がネーミングしたキャラクター「やまとくん」の着ぐるみを制作する。 点灯式前イベントとして、昨年度、大好評であったミニSLの運行についても拡充を図り、来場者数の増加につなげる。	1,503,000	1,163,000	2回目となり地域協力者が少しずつ要領をつかみ、前年よりもスムーズな準備ができた。事業を実施することで、参加者同士の「地域のために」という結束力が強くなり、絆が深まり、地元に対する愛着を醸成することができた。幅広年齢層の交流が生まれ、自分たちの地域が少しでも明るく住み良くなるよう魅力ある地域づくりに効果があった。個人個人の家のイルミネーションも近隣住民同士が協力して装飾し、地区全体にも一体感が生れた。 残念ながら着ぐるみは、予算等から実施が難しくなったため中止にしたが、イベントでは、今年度オブジェを新たに2か所追加し、マスコミに取り上げられたこともあり、たくさんの来場者で大盛況となった。	運営等も含め、無理のかからない地域の協力関係を維持するためには、しっかりと具体的な目標や予算を立て、準備を怠らないよう意見交換を交え、会話を持ちながら取り組んでいく。 点灯式イベントの来場者も年々増加しており、住民の自信にもなりやる気もでてきていることから、引き続き実施していく。
9	長浜魚市場鮮魚直売事業	長浜町漁業協同組合	継続(2年目)	毎月1回「あらせ市」を開催し、地域住民及び観光客に魚市場での鮮魚の対面販売及び調理方法の指導を行う。開催日は、長高水族館や長浜地区内で開催される他イベントと連動させ、地域全体での相乗効果が得られるよう努める。 新たに、地域ブランドとして「嵐さわら」を立ち上げ長浜のイメージアップを図る。また、市外から訪れる観光客への販売にも対応できるよう設備の整備を行う。	2,000,000	2,000,000	昨年度と比べ売上は前年度比20%増となり、来場者数も100~150人から200~300人と増加してきている。 鮮魚直売事業を実施する毎月第3土曜日には、長高水族館、赤橋自由空間などと共同開催としていることが浸透してきており、相乗効果により多くの観光客、地域住民が来場し長浜地区の活性化につながっているものと思われる。	今年度から確立した地域ブランド「嵐魚」を地域住民や観光客に浸透させるため、春はサワラ、夏はハモ、秋から冬はフグなどを「嵐魚」として売り出して、長浜地域がより活性化するように貢献したい。
10	地域再生によるUターン促進プロジェクト	地域再生グループ「光」	継続(2年目)	前年度に引き続き耕作放棄地の整備を行うとともに、既に整備を行った農地に適する作物について研究を行う。また、前年度植栽した「栗」や殖菌したシイタケの管理を行いながら、「夜屋」という地名を生かしたブランド化についての検討を行う。 大洲市が推進している乾タケノコの生産に取り組み、竹林整備による環境整備や自立した活動に向けた取組みを開始するとともに、周辺里道の管理や花木の植栽等についても引き続き実施し環境保全に努める。	1,986,000	1,986,000	前年度の取り組みにより、29年4月末に2名のUターンが決定した。地元グループ「煙友会」と協力し、乾タケノコの生産も試験的に行ったが、通年、安定的に原材料(タケノコ)を確保するためには竹林整備が必要となり、また、イノシシ対策もかかせなかった。 「栗」は2箇所で土壌が悪く、立ち枯れとなり適地の検証が必要であった。収穫はまだできないものの、将来について希望が見えている。 ブランド化は、「夜屋シイタケ」の名称を考えていたが、同じ表示を発見したため、再考が必要となり未実施であった。 また、過疎化が進み、地域環境が悪化が始まっているため、地域住民からの要望により里道整備、古民家等修繕を行い、草刈りなどの環境整備に努めた。	乾タケノコの安定出荷、シイタケ殖菌(年50,000個)、地域の環境保全、Uターン者の最低限の収入の確保、地元グループとの相互協力、活動の認知度アップを図る。
11	HIJIKAWA芸術文化と風の博物館Award 2016	風の博物館友の会	継続(2年目)	「HIJIKAWA芸術文化と風の博物館Award2016」を開催し、交流人口の増加、市民文化の向上、誘客を図る。 参加、体験型ワークショップを開催し、作品の制作を通じて、肱川町に滞在してもらい参加者同士や地域住民との交流を図るとともに、教室を開催し、制作した作品を展示することにより、家族、友人などさらなる誘客を図る。 郷土の文化人で近代日本の洋画界で活躍した「大野捷吉」をテーマにした企画展「大野捷吉とその時代展」を開催し市民文化の向上を図る。	935,000	916,000	風の博物館Award2016では、ワークショップ全13教室、88回開催、参加者350名のうち、11教室から118点の作品が展覧された。Award展示期間中に160人の観覧があった。 「大野捷吉とその時代展」は、9月10日~11月21日まで開催し、539人の観覧があった。 参加型と展示型の企画、えひめいやしの南予博自主企画「歌麿カフェ」の開催により来館者が1,000人を超えた。 肱川での滞在時間も増え、地元観光施設への集客につながったと思われる。	年に一度、地元縁のある作家、画家にスポットを当て展示していきたい。 風の博物館Awardも継続して開催し、各ワークショップの内容の充実と参加者のレベルアップを図り、新規ワークショップ開催への情報収集等を行っていく。

平成28年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績・効果	今後の取組方針
12	河辺地区地域活性化事業	河辺の未来を考える会	新規 「河辺の未来を考える会」を設立し、前年度の活動を引き継ぎ、過疎化・少子高齢化の進む河辺町において今後も住み続けることができるための活動を主眼に置き、河辺町の抱える問題や地域・団体での課題を地域住民全員で共有し話し合い、実践していくためのアンケート調査を実施する。また、試食会で反応が良かったメニューの商品開発及び地域資源の掘りおこしを行う。	900,000	748,000	地域資源を活用した特産品開発については、6次産業化プランナーの米田佳代子氏の指導により、生活研究会及び地域女性グループとの懇談会・検討会によりメンバー以外の参加者も増え、地域交流が広がった。「トマトデザートソース」やゆずを使った品は、東京の百貨店バイヤー試食会で非常に好評であり、トマトデザートソースについては「おおず農産物お見合い事業」においても、今治デパートから商品の注文があった。新商品開発の活動が活発になり沢山の試作品ができた。 地域の活性化として、愛媛大学社会連携推進機構の前田眞教授をアドバイザーに住民アンケート調査及び住民懇談会を2回開催した。ワークショップでは、住民自ら地区の課題の解決のための意見を多く市に提案することができた。地域活性化懇談会の開催により、住民の意識改革や問題解決への一歩を踏み出すことができた。	特産品の開発について、今後は、農林水産物の生産・加工・販売による6次産業化を図るとともに「食」を活用した都市と農村の交流を推進する計画である。平成29年度は、国の農山漁村振興交付金事業を活用し継続して特産品開発に取り組んでいくため、がんばるひと応援事業からは外れる。 28年度に試作した特産品の販路開拓を行うとともに新たな地域農産物の栽培や加工・販売の取り組みにより、地域産業の活性化と雇用創出につなげたい。また、グリーン・ツーリズムを活用した都市住民との交流や伝統的な日本型食生活の推奨及び川魚を身近な食に取り入れる機会を創出し、河辺地域の魅力を地域内外に発信し地域活性化を図る。 平成29年度は、少子化によって児童・生徒数が減少している学校の問題について、存続にむけて学校を核とした地域おこしの方策について検討をしていく。
13	「なわとび」による新たなスポーツ文化の醸成	愛媛県なわとび協会	新規 「大洲なわとびクラブ」を設立し、学校や地域を超えた交流を図るとともに、大洲の子どもたちの体力・気力・コミュニケーション能力の向上を目指す。 また、「第2回愛媛県小学生なわとび選手権大会in大洲」を開催し、学校や地域を超えた交流の機会とする。	877,000	877,000	●大洲なわとびクラブ 大洲市内小学校4校から53名が入会し、週に1回練習を行った。子どもたちは、気軽に運動に取り組むきっかけとなり、定期的に運動する機会が増え、体力の向上につながった。また、上学年の子が下学年の子に跳び方を教えるなど異学年交流が多くあり、他人に対する思いやりの心を育むことができた。 合宿を年3回行い、合計138名の小学生が参加した。合宿では、大洲市外の子とも交流することができた。 ●第2回愛媛県小学生なわとび選手権大会 平成29年3月5日に大洲市総合体育館で開催した。大洲市の小学生を中心に県内外から356名の選手が参加した。保護者等の応援者を含めると900名の人が集まった。 大会では、個人種目7種目、団体種目6種目を行った。	今後、さらになわとび競技者を増やすことを目標とする。そのためには、なわとび指導者を育成する必要があるため、教員等を対象にした指導者講習会を開催し、なわとびの楽しさや魅力を伝える機会を作りたい。 また、今回の事業を通して、子どもや保護者、家族の交流は図れたが、地域の協力・交流に関しては十分ではなかったため、この活動を地域に発信し、地域住民の人々から応援されるような活動をしていきたい。
14	野鳥による肱川町活性化2016	やませみ22	新規 IBA(Important Bird Areas)重要野鳥生息地プログラムで重要湿地として指定されている鹿野川ダムで越冬するオシドリを観察会(エコツアー)の試行、そのために必要な備品等の整備する。 県レッドデータブックの絶滅危惧1類(CR+EN)に指定されているブッポウソウの巣箱を設置し、保全活動に取り組むことにより繁殖地として確立するための環境づくりを行う。	1,052,000	1,052,000	希少な鳥類の生息地として保全するための活動を通して、住民が肱川地域の貴重な地域資源を守り育てる意識が高まった。観察会等により情報発信を行ったことで、肱川地域の認知度が高まり、観光客などの交流人口の増加や特産品の高付加価値化など地域活性化につながった。 オシドリ観察会の参加者の中には、市外からの参加者もあり、オシドリが遠くからでも人を引き寄せる魅力があることが確認できた。 ブッポウソウは10つがいになったら、マスコミ等に公開することになっているが、一歩手前の7つがいであった。 肱川小学校児童に対して、子育て中のブッポウソウの巣箱内の観察会を行った。	オシドリの魅力を伝え、ファン拡充のため観察会の回数を増やしていく。 ブッポウソウの繁殖数の目標を10つがいとしてそれを目指して肱川小学校児童に協力してもらいながら、引き続き巣箱の設置を行う。 ブッポウソウといたけを組み合わせた生き物認証マークを作成し、広く情報発信していく。
15	おおずプレミアムマルシェ	大洲市青年農業者協議会	新規 こだわりの農産物やそれらの加工品を厳選し、大洲の観光の中心でもある肱南地区で、ヨーロッパ朝市のような雰囲気の中、出展者が消費者に直接販売を行う。 1回につき5ブース、秋・冬・春と計3回実施。出展者は公募であるが、高付加価値商品をエントリーシート及び面接で選定し、味、鮮度、賞味最適時期にこだわるサービスを提供。 季節生産時期が限られた入手困難な少量の産品も取り扱う。	1,799,000	1,528,000	出店する農作物などの準備の遅れなどにより2回しか開催できなかったが、1回目、2回目ともに予想を上回る出店者数となった。 2回の開催で両日800人以上を集客し、マルシェに会場されたお客様が農産品を購入するだけでなく、周辺の商店街や観光スポットにも足を運ぶなど、観光面においても相乗効果が出た。 出店者にとっては、一個500円以上の加工品や、1本100円のきゅうりが完売するなど客層の良さも特徴である。さらにマルシェから出品者同士のつながりが生まれ、コラボ商品の開発や農業ビジネスの新たな展開(農商工連携)のきっかけにもなった。 平成28年10月2日(日)・・・来場者数 864名、出店者数 10店、平均売上 33,598円 平成29年2月26日(日)・・・来場者数 1,032名、出店者数 14店、平均売上 32,958円	今回、コンセプトや雰囲気、確かな品質については比較的高い価格帯などでも受け入れられるという事が検証できた。 今後は、開催回数を増やして認知度を上げていくこと、マルシェの雰囲気やコンセプトの軸は曲げないようにしながら、独立した事業化ができるような仕組みづくりを考えていく。 さらに、開催場所付近の商店街や住民への了解が必要不可欠であるので、地域を巻き込んだ形のイベント企画を提案していく。 また、1年目の実施では、事務局側の人員不足により、イベントの設置等の業務を委託したが、今後自立した事業を目指す為には、企画から設置までのすべての作業をともに実行できる人材の確保を図り、実行委員会等を設立を目指す。
合 計				18,857,000	18,075,000		